

ジュピターサテライト放送株式会社 番組審議委員会議事録

1. 開催日時： 平成 25 年 11 月 11 日（月）10 時 00 分～11 時 30 分

2. 開催場所： トラストシティカンファレンス・丸の内 会議室

3. 委員の出席：

委員総数： 7 名

出席委員数： 6 名

出席委員の氏名：

（敬称略、順不同）大蔵 雄之助、品田 雄吉、諸星 裕、大宅 映子、中村 伊知哉、
砂川 浩慶

欠席委員の氏名：

（敬称略、順不同）音 好宏

放送事業者側出席者：

ジュピターサテライト放送株式会社

代表取締役社長 加藤 徹

ジュピターエンタテインメント株式会社

代表取締役社長 宮田 昌紀、ムービープラス部長 寺嶋 博礼

事務局 西山 彰、前田 鎮男、森 綾、吉川 美幸

4. 議題

ジュピターサテライト放送株式会社で放送する 5 チャンネルの内、

1) 「ムービープラス」の番組内容、編成内容について

5. 審議内容

1) 「ムービープラス」の番組内容、編成内容について

ムービープラスの編成及びオリジナル番組『この映画が見たい#2 ～石田純一のオールタイムベスト～』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- ・ 紹介された作品が本放送ですぐに視聴できる番組編成とはなっているのだろうか。気になった作品を自ら CS 放送上で探して視聴するとなると手間がかかる。

- ・ 今回の番組で、石田純一さんは洋画における往年の名作を数多く紹介されていたが、石田さんはバラエティ番組のイメージが強かったので、正直意外だった。映画という個人的な体験が共有されることで、名作映画に今まであまり接点がなかった視聴者であっても、石田さんが語るなら見てみようと思う人がいるように感じた。
- ・ もし若い世代に名作映画を見て欲しいという意図があるのであれば、紹介する映画を大学生などに事前に見てもらい、どう感じたかを石田さんと対談する形式のほうが、若者も共感できる番組となると思う。
- ・ 紹介する映画が名作映画に限定されていたため、少し偏りがあるように感じた。例えば近年のマイナーな映画も含めて石田さんならではの視点で紹介されると、より興味深い番組となるように感じた。

<事業者回答>

- ・ 映画を見るきっかけを提供することが映画専門チャンネルの使命なのではないかと思い、本番組を開始した。様々な分野の著名人が影響を受けた映画を紹介することで、知らない映画も身近に感じてもらうとともに、視聴者に映画との出会いを提供することを目的としている。
- ・ 各著名人ならではの個性が表れる番組コンセプトであるため、ご紹介する作品にはどうしても偏りが出てしまう。ジャンルの偏りやご紹介の作品と編成が連動していない点については課題としたい。
- ・ オンデマンドサービスへも積極的に取り組んでいる。若い世代などすきま時間に映画を見ることに抵抗がない人も増えていることから、映画専門チャンネルとして新たな戦略を練る必要性を実感している。新たなターゲット層へのアプローチを検討する上で、本日のご意見は大変参考となった。
- ・ 今後の措置としては、インタビュー内容と番組編成に連動をもたせることを検討し、より映画の魅力や面白さを伝えることができるようにする。若い世代への取り組みとしては、オンデマンドの強化に加え、放送に加え試写会などのイベントも実施しアプローチを行う。

以上